

2 . 経済データ

マクロ経済で習うこと

中心は G D P

(支出の内訳)

G D P = 消費 + 住宅投資 + 設備投資 + 在庫投資 + 公共投資 + 政府支出 + 輸出 - 輸入

(時系列)

G D P = 経済成長 + 景気循環

市場	生産物市場	貨幣市場	労働市場
供給	企業	マネーサプライ	労働者 (失業率)
需要	消費・投資	貨幣需要	企業
価格	物価 (消費者物価 卸売物価)	利子率 (国債利回り)	賃金 (雇用者所得)

経済データ (詳しくは、2 年からの「データ読み解く日本経済」で)

G D P (国内総生産)

日本で生産された量全体を把握。戦後からほぼ一貫して増加している。

60 年代から 70 年代前半 → ()

74 年 → ()

80 年 → ()

90 年 → ()

失業率 (働きたい人のうち、失業している割合)

失業率 = () / ()

自然失業率 経済の好況不況にかかわらず生じる失業率

消費者物価指数 (消費者が買うさまざまな商品の平均的な価格)

基準年を 2000 年にした数字にしている。物価が継続的に上がることをインフレーション、下がることをデフレーション (デフレ) という。

株価（日経平均）（225 社の株価を平均したもの）

株価は、ある企業の会社の価値を示す。代表的な会社 225 社の株価について平均したもの。

金利

- ・金利は、お金を借りると払い、お金を預けるともらえる。
 - ・短期は 1 年未満、長期とは 1 年以上のこと。グラフは、コールレートと公社債インデックス（国債、地方債、社債）などを買った時の平均的な金利を表す。
 - ・金利は、景気が良いと高くなり、悪いと低くなる。
- また、金利を上げることで、景気の過熱を防いだり、下げることで景気を良くしようとする。（金融政策）
- ・最近金利を下げているのに景気が良くならない。

マネーサプライ

日本に出回っている現金と預金の量。マネタリストが重視。

現金通貨、預金通貨から構成される。

為替レート

通貨を交換する時の比率。

1 ドル 100 円 → 200 円は円高？円安？

ストックとフロー

経済データは、ストックのデータとフローのデータに分類される。

フロー → 一定期間内の量

ストック → ある時点で存在する量（使ってなくなるものはストックにならない）

フロー	ストック
1 年間の預金量	貯金の総額
GDP（ある期間生産量）	国富（生産したものの合計）
	マネーサプライ（お金の存在量）
	資産
消費（ある期間に使った量）	
投資（＃）	資本ストック（これまでの投資を合計）

実質と名目の違い

名目 GDP = 生産量 × 価格

実質 GDP = 名目 GDP / GDP デフレーター

生産量は変わらず、価格だけ上がった場合

	名目 GDP	実質 GDP	GDP デフレーター	リンゴの生産量 (個)	価格 (円)
2000			1.0	10	100
2001				10	150

生産量が変わらず、価格だけ下がった場合 (デフレ)

	名目 GDP	実質 GDP	GDP デフレーター	リンゴの生産量 (個)	価格 (円)
2000			1.0	10	100
2001				10	50

生産量が増えて、価格が変わらない場合

	名目 GDP	実質 GDP	GDP デフレーター	リンゴの生産量 (個)	価格 (円)
2000			1.0	10	100
2001				30	100

生産量が増えて、価格も上がった場合

	名目 GDP	実質 GDP	GDP デフレーター	リンゴの生産量 (個)	価格 (円)
2000			1.0	10	100
2001				30	150